

終了報告レポート JGA 第一支部研修

日本人形の老舗浅草橋「久月」本店で研修しよう

8月6日（水）、記録的な猛暑となる中、38名（正会員27名、非会員8名、担当3名）の通訳案内士が、天保年間から続く日本人形の老舗、浅草橋「久月」本店に集まりました。

研修は、久月八代目社長 横山久俊様によるご講義、1階店舗にて商品として陳列されている人形の見学、2階にて現在準備中の五月人形の見学、そして希望者による毬製作体験の3部からなる盛りだくさんの内容でした。

午後1時からのご講義は、まず久月様地元の浅草橋および近隣地域の歴史・地名等のお話から始まり、五節供（節句）、雛人形の変遷・京雛と関東雛の違い、五月人形・鎧兜、伝統芸能と人形との関係、そして江戸時代より受け継がれてきた伝統技術の継承とその問題点といった多岐にわたる充実した内容で、大変興味深いものでした。



参加者からは、頭・衣装・毛髪の素材、職人さんの数、海外への配送手段など様々な質問が寄せられ、みなさんの関心の高さがうかがわれました。加えて、講義途中には、実際の職人さんによる雛人形・兜の製作場面の動画もご紹介くださり、2時間があっという間に過ぎてしまいました。

休憩を挟み午後3時半からの人形見学では、参加者各自、商品の写真を撮ったり、人形や兜について店舗スタッフの方々に質問したりと、とても有意義な時間となりました。

午後4時から、24名の希望者による毬製作体験が行われました。直径5センチほどの木目込みの入った球に、色とりどりで模様も美しいちりめん生地を張り付けていく作業でした。みなさん悪戦苦闘しつつも、見事に、またはそれなりに完成させ、午後5時過ぎに終了となりました。



今回の研修では、日本人形はもちろんのこと、関連する歴史や日本の伝統技術まで広範な知識を得ることができました。伝統に裏打ちされた、まさに『日本らしい』物や話題を求める海外からのお客様にとって、大変興味深いトピックになると思われます。

ちなみに、久月様からは、たとえ購入目的ではなく単に見学目的であっても、外国人旅行者の来店は very welcome との、とてもありがたいお言葉をいただいております。



第一支部研修スタッフ一同